

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

静岡大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	7
《本文》	8
《判定結果一覧表》	20

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

- ：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※
- ：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

静岡大学は、世界文化遺産・富士山など豊かな自然と文化に恵まれ、我が国有数の経済圏である静岡県に立地する総合大学として、「自由啓発・未来創成」のビジョンに基づく質の高い教育、創造的な研究及び未来を担う人材の育成を通して、人類の平和と幸福及び諸科学の発展に貢献し、地域社会とともに発展することを基本的な目標としている。

第3期中期目標期間においては分野ごとに下記の目標を掲げ、主体的・能動的学習の推進、教育の国際化、特定分野における世界的研究の推進及び地域社会との連携を通して、その社会的責任を果たす。

【教育】

高度な専門性と国際性を有し、チャレンジ精神にあふれ、理工系イノベーションや地域の諸課題に取り組むことができる人材を育成する。

文理融合を含む専門分野を越えた教育、学生が主体的・能動的に学習する質の高い教育及び教育の国際化を推進する。

【研究】

研究上の特色と強みである光応用工学分野などの重点研究分野を中心に、地域及び海外大学・研究機関と協働した世界レベルの研究を推進し、世界的研究拠点の形成を目指す。

静岡県の経済、社会、文化等の諸課題に対し課題解決型研究を推進し、地域の知の拠点として地域社会の発展に貢献する。

【社会連携】

現代の諸課題に真摯に向き合い、地域社会と協働し、その繁栄に貢献する。

【国際化】

国際化が進む地域社会の一員として諸課題に積極的に取り組むことを通して、大学の国際化を一層進める。

【経営】

大学ガバナンスの確立と運営の効率化を通して、教育研究の機能強化と経営基盤の安定化を進め、教育研究の成果を社会に還元することでその社会的役割を果たす。

1. 設置の経緯と現況

静岡大学(以下「本学」という。)は、昭和24年5月31日に静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校及び浜松工業専門学校を母体として、文理学部、教育学部、工学部から成る静岡県内初の4年制国立大学として設置され、昭和26年には、県立静岡農科大学が移管され統合を果たした。

本学のキャンパスは、その前身・設置の経緯から、静岡市と浜松市の2つの政令指定都市を中心として立地する。静岡市は、県の行政と商業の中心地であり、市を中核とする県中東部地域は、食品産業、医薬・医療産業が著しい発展をみせている。他方、浜松市は、古くは、繊維・染色産業から始まり、楽器、二輪車、自動車の製造、最近では、光・電子産業の創出等、日本の産業創生を担ってきた工業都市である。

こうした両キャンパスの立地を反映し、現在、静岡キャンパスには、人文社会科学部・人文社会科学部研究科、教育学部・教育学研究科、理学部、農学部を、浜松キャンパスには、情報学部、工学部を、両キャンパスに、地域創造学環、総合科学技術研究科、創造科学技術大学院(自然科学系教育部・創造科学技術研究部)、光医工学研究科(浜松医科大学との共同教育課程)、電子工学研究所、グリーン科学技術研究所を設置している。

2. 教育の特徴

(1) 幅広く深い教養と基礎的能力、高い専門性の育成

共通教育と専門教育の有機的連携を図り、幅広く深い教養とそれを踏まえた専門知識・技術の修得を目指すとともに、今日の知の創造に不可欠な基礎的实践能力(外国語能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力等)を備える地域に根ざした真のグローバル人材の育成を目的とする教育を展開している。

(2) 地域と連携した理工系イノベーション人材の育成

大学院課程において、社会のニーズに即したカリキュラムの編成の下、企業や自治体、教育界等と協働した実践的教育を推進することにより、課題探求・解決能力を有し、かつ、社会性と国際性を備えた理工系イノベーション人材の育成に取り組んでいる。

(3) グローバル人材の育成

教育の国際化を進めるため、外国語教育、国際関連講義、英語による講義、外国人研究者による講演等の充実に取り組むとともに、産業界との連携の下、地域企業の海外展開を支えるグローバル人材を育成する全学横断型のアジアブリッジプログラム(ABP)を実施している。

3. 研究の特徴

(1) 研究組織の整備と世界トップクラス研究の推進

世界トップクラスの研究拠点の形成を目指して、電子工学研究所、グリーン科学技術研究所の2研究所を設置し、さらに、超領域研究推進本部の下に全学体制で重点研究3分野(光応用・イメージング、環境・エネルギーシステム、グリーンバイオ科学)の高度な研究を推進している。

(2) 地域社会と連携したプロジェクト研究の推進

浜松医科大学、光産業創成大学院大学、浜松ホトニクス(株)及び本学の4機関連携の下、「国際科学イノベーション拠点整備事業」を進めるとともに、地域特性を活かした社会文化に関わる研究や地域課題解決のための研究を推進している。

教育・研究及びこれらの成果の社会への還元を通して、地域とともに発展する静岡大学を目指している。

[個性の伸長に向けた取組(★)]

○ 地域創造学環の設置などの学部等教育組織の改革

学問動向や社会的ニーズを踏まえて専門分野ごとに人材養成像を明確にし、それぞれに適合した体系的な教育課程の再編を行い、地域課題解決・地域人材養成のための全学横断教育プログラムである「地域創造学環」を平成28(2016)年度に開始し、令和3(2021)年度までに第三期までの卒業生を輩出した(就職率99%)。地元就職率も三期平均で59%と、全学平均の40%に比べて高い数値を達成し、地域への人材的貢献を果たした。

さらに、全学教育基盤機構の下に「地域づくり副専攻運営委員会」を設置して「地域づくり

副専攻（令和2（2020）年度から「地域づくり特別教育プログラム」に名称変更）」を開設した。

アクティブラーニング(AL)やフィールドワーク(FW)、県内約460の企業・団体等で組織する「I Love しずおか協議会」と協定締結した地域課題解決型(PBL)授業などの地域志向科目、英語による授業などを導入し、全学的な授業科目メニューの多様化を推進した。また、令和元(2019)年度にオンライン教育推進室を設置し、42科目について、オンラインあるいはオンデマンドを活用した授業が実施された。

特に令和2（2020）年度から教養科目必修で実施の「数理データサイエンス入門」は、授業時間すべてをWeb上で展開する初のオンライン教育であり、オンライン教育教材の開発を行い、令和2（2020）年度から現在まで着実に授業を実施している。令和3（2021）年度に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」としても認定され、同認定を受けたのは静岡県では本学のみであった。

また、本学は全学教育科目の必修科目のみで構成される教育プログラムとして認定を受けているため、卒業生の100%が認定対象者となり、文部科学省が定めるリテラシーレベル認定の基準（認定対象者が全学生の50%以上）を大幅に超える高い水準であった。

（関連する中期計画1-1-1-1、1-1-1-4、1-1-2-3、1-2-1-5）

○ アジアブリッジプログラム(ABP)の更なる発展を核としたグローバル化の推進

平成27(2015)年度に開始したアジアブリッジプログラム(ABP)は、国際展開を進める静岡県企業及び自治体と連携し、インド、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマーを重点地域として、アジア諸国から学生を受け入れて、将来、静岡とアジア諸国の架け橋として活躍が期待される人材を育成するプログラムである。

インド、インドネシア、タイ、ベトナムの4カ国を対象国として始まった学士課程においては、平成30(2018)年度にミャンマーを追加して拡充を図った。令和元(2019)年度には、ミャンマーからの学生を含め、27名がABP学士課程に入学し、学士1期生が卒業した。日本人学生を対象としたABP副専攻も平成30(2018)年度に初めてのプログラム修了生を輩出し、ABP学士プログラムと併せて学内のグローバル化推進に寄与している。

重点地域を含む16カ国を対象とする修士課程は5期生の修了で、合計211名(定員40名)が学位を取得しており、想定以上の成果が出ている。修士課程のABP副専攻では、英語のみによるプログラムが展開されている。また、理学部に「創造理学(グローバル人材育成)コース」、人文社会科学部に「国際日本学副専攻プログラム」を設置し、グローバル化を推進している。

令和元(2019)年度には、マレーシア工科大学でのブランチラボ開設に合わせて、9月に同校において記念式典が行われた。また、本学の最初の海外協定校であるネブラスカ大学オマハ校との交流40周年を祝い、10月に同校のゴールド学長を迎えて記念式典を挙行了した。

令和3（2021）年度には、インドネシア、タイ、フィリピンの協定校と「持続可能な開発のための教育ESD、開発目標SDGs」をテーマとしたコンソーシアム（JPTI6 SD Consortium）を結成し、共通課題に取り組むプラットフォームを整備した。

また、留学生と日本人学生の交流や留学促進を目的としたグローバルコミュニティーとして令和元(2019)年度にオープンした国際交流ラウンジは、旧留学生支援ボランティアの活動に加え、平成30(2018)年度から活動を開始したABP副専攻の学生・ABP留学生によるアジアサロン、令和2（2020）年度より開始したグローバル・リーダーシッププログラムなどのグローバルプログラムの修了生等によるイベント企画やピアサポートの活動等が活発に行われており、学生主体のコミュニティーとして成長を続けている。

（関連する中期計画1-1-1-2、1-1-1-4、1-1-3-4、1-2-1-2、3-1-1-5、4-1-1-1、4-1-1-2）

○ 浜松医科大学との共同専攻設立など大学院教育の充実と多様化

平成30(2018)年度に浜松医科大学との共同教育課程である「光医工学研究科光医工学共同専攻」を設置し、令和元(2019)年度からは、創造科学技術大学院及び光医工学研究科への接続プ

プログラムとして「医工学プログラム」を設計した。その他、副専攻プログラムとして、総合科学技術研究科の農学専攻に「山岳科学教育プログラム」、工学・情報学専攻に「産業イノベーション人材育成プログラム」を導入する等、大学院教育の充実と多様化に取り組んだ。産業イノベーション人材育成プログラムの受講者数及び協力企業は、令和元(2019)年度16名・5社、令和2(2020)年度16名・12社、令和3(2021)年度25名・5社であった。

(関連する中期計画 1-1-3-1、1-1-3-3、2-1-2-3)

○ 学習環境のICT化や就職支援等の学生支援

令和元(2019)年度に、機能強化経費により「オンライン教育推進室」を設置してオンライン教育の強化に取り組むとともに、「クラウド反転授業支援システム」を構築し、授業におけるICT利用モデルの開発を進め、社会人にも学びやすい環境の整備に努めている。

オンライン教育推進室では教員と学生別に特設サイトを開設し、在宅授業の実施に関する情報をワンストップで提供し、メール・電話・チャットボットにより教員と学生からの問い合わせに対応している。特設サイトには、教員向け情報として、在宅授業の実施方法に関するマニュアルなどを掲載し、学生向け情報として、在宅授業の受講方法や課題の提出方法、動画教材の視聴方法などに関する資料を掲載している。

また、文部科学省より補助を受けた「ポストドクター・キャリア開発事業」や「留学生就職促進プログラム」を活用し、高度な専門性と社会性を備えた人材の育成を強化した。特に後者は政府の成長戦略ポータルサイトに「外国人材の活躍推進」先進事例として紹介された。令和3(2021)年度には「留学生就職促進プログラム」の後継となる「留学生就職促進教育プログラム」に申請(プログラム名:アジアブリッジプログラム日本就職コース)し、これが認定された。

(関連する中期計画 1-1-1-5、1-1-2-3、1-1-3-5、1-1-3-6、1-2-1-5、1-3-1-3、3-1-1-5)

○ 光応用工学分野をはじめとする重点研究3分野の世界トップレベルの先端領域研究推進ならびに研究支援

文部科学省の「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択されており、浜松医科大学、静岡理工科大学、光産業創成大学院大学と連携してメディカルフォトンクス技術による事業化への研究開発を進め、令和2(2020)年度の終了評価においてA評価を得た。

さらに、文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」の内、「精神的価値が成長する感性イノベーション拠点(中核:広島大学・マツダ(株))」の光創起サテライト拠点として、浜松ホトニクス(株)、浜松医科大学、光産業創成大学院大学等と共に、COI事業を補完する研究開発を行い、事業開始後9年目の事後評価(令和4年3月)において最上のS評価を得ている。

重点研究3分野を中心とした超領域による研究を推し進める「超領域研究推進本部」では、第3期中期目標期間全体を通じて、「融合研究促進費」の枠組みを設け、6年間で教員のべ48名に対し計42,162,000円、教員が構成する研究組織のべ21組織に対し計3,600,000円の研究支援を行った。前者については、平成30(2018)年度から「国際共同研究推進支援」という枠組みを設け、若手研究者が海外の研究者と共同で行う研究の強化を推進した。さらに、支援を受けた個々の教員に対しては、支援期間中に超領域研究推進本部構成員によるヒアリングの場を設け、支援の活用状況や、今後の研究の展望について意見交換を行うことで、超領域的な視点からの補正をかけながら研究活動の活性化を図った。

本学の研究力の強化を目的として、令和元(2019)年度からURA(特任教員)1名を増員した。また、研究力の分析や活動状況を客観的に把握するため、IR室と連携してデータベースの整備を開始し、教員情報と外部資金をリンクさせ検索することを可能とした。さらに、IRによる分析を基に次期中期目標期間中の重点研究分野と研究力強化に関する具体的数値目標を策定し、全学に周知した。(関連する中期計画 2-1-1-2、2-2-1-2)

○ 社会連携・地域貢献を目指した取組と社会実装型研究の推進

令和2(2020)年度から、本学における持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた活動を総合的に進める体制を構築し、地域に住む人々のウェルビーイング向上と持続可能な社会構築、そして分野横断的な課題解決型の教育研究の発展を実現するため、新たに「未来社会デザイン機構」を設立して、その構成組織として「サステナビリティセンター」を設置することとした。

社会的要請の高い分野の研究において、既存の学部や研究所等の組織を超え自律的で自由な発想の基で活動を展開する研究所の設置を可能とした「プロジェクト研究所規則」を制定し、令和元(2019)年度10件、令和2(2020)年度8件、令和3(2021)年度9件を設置決定した。

浜松地域イノベーション推進機構・フォトンバレーセンターを中心に創設された「産官学金連携課題解決プロジェクト推進事業(A-SAP)」に参画し、地域中小企業支援に貢献している。

その他、温泉付随メタンガスによる発電や、植物耐熱性向上資材の開発などが既に社会実装され、平成29(2017)年度開設された静岡県からの寄附講座「ふじのくにCNF(セルロースナノファイバー)寄附講座」では、令和元(2019)年度には静岡県富士工業技術支援センター内に静岡大学CNFサテライトオフィスを開設し、静岡県内の製紙産業との連携が進んでいる。

(関連する中期計画2-1-2-3、3-1-1-2)

○ 小・中学生向け教育プログラムの推進

平成29(2017)年度から令和2(2020)年度まで科学技術振興機構の次世代人材育成事業「グローバルサイエンスキャンパス(GSC)」に採択された「つなげる力で世界に羽ばたけ未来の科学者養成スクール(FSS)」を推進し、全国で唯一、文部科学大臣賞を2件受賞するなどの成果により、中間評価、事後評価ともにA評価を獲得している。

また、浜松市を中心とした静岡県西部地区、ならびに中部地区の一部において展開している小・中学生対象の理数才能教育プログラム「浜松トップガン」事業においては、産官学金協働により「トップガン教育システム協議会」を立ち上げ、令和3(2021)年度末時点で12社(2020年度株式会社ヤマハ・静岡銀行が参加、2021年度末時点では、10の企業・2つの金融機関)が加わり、地域の大学・自治体等と共に理数系人材育成に取り組んでいる。各種の理数コンテストでは多くの受賞者を輩出し、科学の甲子園ジュニア静岡県大会では開催回すべてにおいて最優秀賞を獲得し、全国大会に出場するなど高い成果を挙げている。協議会主催の算数コンテスト「マスやらまいか」は9年間、「理科プレゼンテーションコンテスト」は6年間活動を継続している。毎年参加者は、それぞれ約600名、約90名となるなど、地域に定着した取組となった。これらは理数系部活動の活発化や教員の指導力向上など、地域の教育力向上にも貢献している。

(関連する中期計画3-1-1-4)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

○ユニット1 地域の製造業を中心とする企業の海外展開等を支えるグローバル人材育成

現地企業と協力した優秀な留学生の受入れ、留学生の日本企業等での研修、日本人学生の海外インターンシップ、就職キャリア支援等、産業界と連携したグローバル人材教育システムを構築し、アジアを中心とした企業の海外展開等を支える国際人材の育成に取り組む。この取組を通して、学部教育・大学院教育のグローバル化、留学生の受入れ、日本人学生の海外派遣、国際交流など大学のグローバル化を推進する。

(関連する中期計画 1-1-1-2、1-1-3-4、3-1-1-5、4-1-1-3)

○ユニット2 地域社会の繁栄に貢献する地域人材育成と地域課題研究の推進

地域における知の拠点として、教育・研究を基に地方公共団体、金融機関、近隣大学、産業界等と協働し、地域社会の諸課題の解決に取り組むとともに、地域活性化の中核的拠点として、地域創造学環を中心とした地域人材育成教育プログラムを構築し、地域の地方公共団体、産業界等で活躍できる人材の育成に取り組む。

(関連する中期計画 1-1-1-4、2-1-2-3)

○ユニット3 光応用工学分野をはじめとする重点研究3分野の世界的研究・教育拠点の形成

豊かで持続的な社会を実現するために、地域の企業、大学との連携及びグローバルなネットワークを活用し、本学の強みである重点研究3分野(光応用・イメージング、環境・エネルギーシステム、グリーンバイオ科学)の研究を更に発展させ、新しい科学、産業を創造するとともに、優れた研究者、技術者、イノベーターを育成する世界的な研究・教育拠点の形成を目指す。

(関連する中期計画 2-1-1-2、2-1-2-2、2-2-2-2)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、静岡大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 達成して いる	【2】 十分に達 成しているとはい えない	【1】 達成して いない
I 教育に関する目標	【3】 達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している			4		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している			1		
3 学生への支援に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			1		
II 研究に関する目標	【3】 達成している					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		2	1		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 達成している			2		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 達成している					
	なし			1		
IV その他の目標	【3】 達成している					
1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			2		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
社会的ニーズに応える人材養成像を明確にし、それに適合した教育課程の編成の下で、文理融合を含む学際教育及び教育の国際化を推進し、理工系人材、地域の求める人材、グローバル人材を育成する。【1】	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がおおむね「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》 (優れた点) ○ 地域・グローバル人材の育成 平成27年度に「アジアブリッジプログラム (ABP)」及び「ABP 副専攻」、平成28年度に「地域創造学環」、平成29年度に「地域づくり副専攻」を設置し、学際教育及び教育の国際化を推進しており、地域の求める人材やグローバル人材の育成を図っている。「地域創造学環」では令和元年度には最初の卒業生49名を輩出し、56%の卒業生が県内の企業・自治体等に就職している。(中期計画 1-1-1-4)		

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの推進 全学教育科目における地域志向教育や国際教育に関する科目を充実させているほか、シラバス上に各授業科目が実施しているアクティブ・ラーニングの種別を記入することとした結果、アクティブ・ラーニング科目は平成27年度の366科目から令和元年度の680科目(86%増)へ、フィールドワーク科目は平成27年度の111科目から令和元年度の174科目(57%増)へと増加している。(中期計画1-1-1-1)</p> <p>● 教員就職率の改善 「初等学習開発学専攻」を拠点とする小学校免許プログラムの充実に取り組み、中学校・高等学校免許取得も含めて、見通しと振り返りに基づく異学年交流等を導入した体系的カリキュラム「教職キャリア形成プログラム」を開発して、令和元年度より開講し、「初等学習開発学PBL」等、小学校免許に関わる特色ある授業科目を新たに開設している。さらには、「小学校の教科教育モデルコアカリキュラムの策定」に取り組むとともに、小学校専門基礎の内容を整理した各教科における「学びのチャート」を作成し、資質・能力の向上に取り組んでいる。このほか、同窓会の支援の下、教職支援室による教職サポート活動の一層の充実を図っている。</p> <p>これらの取組により第3期中期目標期間中の県内中学校教員や県外小中学校教員等も含めて、教員就職率の向上につながっている(H30:57.8%、R1:59.8%、R2:56.4%、R3:61.8%)。(中期計画1-1-1-3)</p> <p>※ 中期計画1-1-1-3については、静岡県における小学校教員の占有率において、当該県における採用状況という外的環境要因等が大きく変化したためこのような状況を勘案して本小項目を総合的に判断した。</p>		
<p>小項目1-1-2</p>	<p>判定</p>		<p>判断理由</p>
<p>教育の質保証のため、学修成果の可視化、十分な学修時間の確保、学生の主体的・能動的学習の促進等に取り組む。【2】</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>該当なし</p>			

小項目 1-1-3	判定		判断理由		
<p>人材養成像を明確にし、それぞれの目的に適合したコースワークを中核とする体系的な教育課程の編成の下で、文理融合を含む専門分野を越えた教育及び教育の国際化を推し進め、高度な専門性と社会性を備えた理工系人材、地域の求める人材、グローバル人材を育成する。【3】</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。なお、4年目終了時に指摘した改善を要する点は改善されている。</p>		
			<p>《特記事項》</p>		
			<p>(特色ある点) ○ 専門分野横断的な教育の推進 平成 29 年度に設置した「山岳科学教育プログラム」、平成 30 年度に設置した「産業イノベーション人材育成プログラム」及び「光医工学研究科 (光医工学共同専攻)」等により、文理融合を含む専門分野を越えた教育を推進しており、高度な専門性と社会性を備えた理工系人材及び地域の求める人材の育成を図っている。(中期計画 1-1-3-3)</p>		
小項目 1-1-4	判定		判断理由		
<p>教育の質保証に向け、多角的な評価方法による教育成果の検証を通して、学修成果の可視化に取り組む。【4】</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>		
			<p>《特記事項》</p>		
			<p>該当なし</p>		

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-2-1	判定		判断理由
<p>第2期中期目標期間に設置した全学教育基盤機構を中心に、全学的観点からの教育ガバナンスと総合的見地に基づく教員配置を通して、明確な人材養成像に基づく体系的な教育課程の編成、教育の質保証、教育の国際化等の課題に取り組む。【5】</p>	【3】	中期目標を達成している	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
			<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、オンデマンド型授業によるオンライン教育を実施している。感染症拡大以前から、オンライン教育推進室を設置し、オンライン教育の質向上に取り組んでいたことも役立てており、オンライン授業の学修状況確認アンケートでは7、8割の学生が肯定的な評価をしている。また、学生から課題の量についての意見があったことから、オンライン教材の質保証のためのチェック項目を作成している。</p>

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

<p>【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 1-3-1	判定		判断理由
<p>学生に対する学習支援、生活支援、課外活動支援、就職支援等を充実する。</p> <p>【6】</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「実践的キャリア教育の充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 実践的キャリア教育の充実</p> <p>企業・財団等と協働し、豊かな地域資源等を活用して新たな豊かさを生み出せるような人材を育成していく取組「静大発“ふじのくに”創生プラン」の一環として、「地域志向科目」や「キャリア形成科目」を全学必修化するとともに、低学年向けの仕事観察型インターンシップ「ワークラリーしずおか」を開始し、企業向け説明会、県内企業とのインターンシップマッチング会、就職支援・インターンシップ相談カフェ、出張相談等を実施している。これらの取組の結果、インターンシップ参加者数は、平成27年度の345名に対し、令和元年度には1,116名となっている。また、平成29年度の全卒業者の県内就職率が41.1%であるのに対し、県内インターンシップ参加者の県内就職率は59.6%となっている。</p> <p>(中期計画 1-3-1-4)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 障害学生の学修支援体制の充実</p> <p>障害学生支援室において、平成29年度から静岡キャンパ</p>			

	<p>スに常勤教員1名を配置し、東海地区障害学生支援フォーラムにおいて運営委員として地区の連携・協力体制確保を推進するなど、学内外で支援の充実を図っている。また、令和元年度から浜松キャンパスの障害学生支援室特任教員の週勤務時間数を増やし学修支援の充実につなげており、これら体制の強化により、障害があり支援を受ける学生数は、平成28年度の26名から令和元年度の62名に増加している。さらに、「共生社会とピアサポート」という授業科目を2年次生向けに開講し、学生の意識向上を図っている。(中期計画1-3-1-3)</p> <p>● 新型コロナウイルス感染症下における就職支援</p> <p>就職相談室の相談体制や就職に関するガイダンス等は、特に令和2年4月の緊急事態宣言時は対面での対応が不可能となったため、大規模にオンラインを取り入れている。また、緊急事態宣言解除後も状況に応じて、対面とオンラインのハイブリッド方式を継続的に実施し、新型コロナウイルス感染症下においても、静岡地区の就職相談室では、年間を通して予約枠の90%の相談予約を受け付け、浜松地区の就職相談室では84%の相談予約を受け付けている。さらには、就職率が新型コロナウイルス感染症下以前とほぼ同程度の水準まで回復している。(中期計画1-3-1-4)</p>
--	---

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-4-1	判定	判断理由
アドミッション・ポリシーに基づき、知識のみでなく様々な能力や意欲・適性を多面的・総合的に評価する入試を実施する。【7】	【3】	中期目標を達成している
	《特記事項》	
	該当なし	

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、2項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
<p>自由な発想の下に基礎研究を推進するとともに、ミッションの再定義を受けて明確化した特色ある研究分野を戦略的に重点化し、組織的に研究を進める。</p> <p>【8】</p>	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「重点研究分野の戦略的推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<p>《特記事項》</p> <p>（優れた点）</p> <p>○ 重点研究分野の戦略的推進</p> <p>静岡大学の特色ある研究3分野を戦略的に重点化し、それらを超領域に展開する超領域研究推進本部を設置しており、学内外の研究者との異分野交流を促進する超領域研究会や、国際シンポジウムを継続的に開催している。その結果、重点研究分野の国際学術論文数は、令和元年度一人当たり2.76</p>		

	編となっており、平成 27 年度に比べ 6.6% 増加、国際論文における国際共著比率は 31% となっており、平成 27 年度に比べ 29% 増加している。(中期計画 2-1-1-2)	
小項目 2-1-2	判定	判断理由
地域の特色を生かした世界的産学連携拠点を形成し産業振興に資する研究や、地域の知の拠点として、学術文化の向上に寄与する研究を推進する。【9】	【4】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「光技術研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 光技術研究の推進 光時空間遠隔制御技術等に関する研究開発を推進しており、「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」において、光創起サテライト拠点 (浜松医科大学、光産業創成大学院大学、地元民間企業と共同) として参加し、ウェアラブル脳情報計測技術の開発等を行っている。なお、COI プログラムは、研究開始後 4 年目から 6 年目間の中間評価で S+ の評価を得ている。(中期計画 2-1-2-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域防災に関する研究成果の発信 静岡県と「行政職員防災講座事業に関する協定書」を取り交わしており、令和元年度から自治体職員を対象とした防災講座を実施し、研究成果を地域社会に還元している。また、防災総合センターにおいて、静岡県の地域防災に関する研究成果を発信するため、静岡新聞社から『静岡の大規模自然災害の科学』を令和元年度に出版し、地域防災に貢献している。(中期計画 2-1-2-3)</p> <p>● 山岳科学の教育研究の展開 令和 3 年 11 月、6 か国の 10 大学と連携し、国際セミナー International Seminar on Integrating Field Monitoring and Management Towards Sustainable Ecosystem Services</p>	

	<p>in Asian Forests を主催し、当初計画していた最新の研究成果に関する講演に加え、学生による研究発表（30 件）や国内外の学生の協力によるグループワークを実施し、研究・教育成果のさらなる発信と普及を実現している。</p> <p>また、静岡県森林・林業研究センターと共同研究が開始されるなど、地域の知の拠点として学術文化の向上に寄与している。（中期計画 2-1-2-3）</p>		
小項目 2-1-3	判定		判断理由
<p>大学で創出される研究成果を社会へ還元する。</p> <p>【10】</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	《特記事項》		
	該当なし		

（2）研究実施体制等に関する目標（中項目 2-2）

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>（判断理由）「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2 項目のうち、2 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 2-2-1	判定		判断理由
<p>全学的観点から研究の基本的な戦略や将来計画を策定し、研究上の強み特色を生かした重点研究分野を核に世界に羽ばたく創造的研究の推進体制を構築する。</p> <p>【11】</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-2-2	判定		判断理由
<p>質の高い研究を進めるために部局の枠を越えて優れた研究者を戦略的に配置し、研究者が安定した研究活動を行える環境を整備する。【12】</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

<p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定	判断理由
<p>地域における知の拠点として、教育・研究を基に地方公共団体、金融機関、近隣大学、産業界等と協働し、地域社会の諸課題の解決及び地域を支える人材の育成等に貢献する。【13】</p>	<p>【3】</p> <p>中期目標を達成している</p>	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域連携応援プロジェクトの推進</p> <p>「地域連携応援プロジェクト」は、学生・教職員が主体となり、地域の人々や団体、自治体等と協働で取り組む地域活性化につながる活動を支援することで、地域連携・地域貢献の芽を育てるプロジェクトとして、平成23年度より継続して実施しており、外国人児童の学習支援事業等、地域と連携した活動を展開し、毎年度15件程度のプロジェクトが進行している。また、プロジェクト開始時から毎年度成果報告書を刊行しており、第3期中期目標期間中の新たな取組として、進捗状況を紹介するWebサイトの設置、地域連携メールマガジンの配信及び「静岡大学地域連携報告会」を開催するなど、媒体や方法を改善しながら広報活動の充実を図っている。(中期計画3-1-1-1、3-1-1-4)</p>	

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
グローバル化推進のための教育研究環境の整備を行い、アジアをはじめとした国際社会で活躍できる人材育成や国際的研究の展開、国際貢献に積極的に取り組む。【14】	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ● 新型コロナウイルス感染症下における留学生受入・海外派遣 留学生受入については、オンラインでの受入体制や、海外からオンラインで交換留学の単位が取得できる規則整備等を行っている。海外派遣については、協定校等でのオンライン語学研修プログラムを実施するとともに、全学教育科目の英語科目・初修外国語科目の単位として認定する制度を整備し、準備したプログラム数・参加者は令和2年度夏季3本・12名、後期3本・14名、令和3年度夏季12本・24名、春季8本・3名となっている。(中期計画 4-1-1-3)		

小項目 4-1-2	判定		判断理由
海外交流協定校等を中心とした国際ネットワークを構築するとともに、国際化のための環境整備を行い、教育研究の交流を一層促進し、多文化が共生するグローバルキャンパスを実現する。【15】	【3】	中期目標を達成している	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
	《特記事項》		
	該当なし		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【3】	達成している 3.31 うち現況分析結果加算点 0.06	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	達成している 3.00	【2】
小項目1-1-1 社会的ニーズに応える人材養成像を明確にし、それに適合した教育課程の編成の下で、文理融合を含む学際教育及び教育の国際化を推進し、理工系人材、地域の求める人材、グローバル人材を育成する。【1】	【3】	達成している 2.40	【3】
中期計画1-1-1-1(★) 異分野にも目を向けることのできる幅広い視野と豊かな人間性の育成を目指し教養教育を充実させるため、平成25年度新カリキュラム導入の学修成果を検証し、アジアブリッジプログラム(ABP)や学部横断教育プログラム「地域創造学環」の中核となるアクティブ・ラーニング科目、フィールドワーク科目等の充実と合わせて、全学教育科目の科目メニューの多様化を行う。【1】	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-2(★)(◆) 学生の国際交流の機会を拡大し教育のグローバル化に対応した教育環境づくりを促進するため、ABPの推進を通して外国語教育、英語による授業等の充実を図るとともに、日本学術会議分野別「参照基準」等を活用した国際通用性のあるカリキュラム編成とそれに基づく海外大学等との単位互換等の教育面での国際交流を実施し、柔軟な学期区分等を設定する。【2】	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-3 学問的動向や社会的ニーズを踏まえて専門分野ごとに人材養成像を明確にし、それぞれに適合した体系的な教育課程の編成を行う。 教員養成課程では、静岡県内の小学校教員占有率を30%以上とするため、「初等学習開発学専攻」を拠点とする小学校免許プログラムの充実、教員への適性・志向性重視の入試システムの構築等を行う。【3】	【1】	十分に実施しているとはいえない	【1】
中期計画1-1-1-4(★)(◆) 地域課題解決型の全学横断教育プログラム「地域創造学環」を導入するなど地域の求める人材を育成するとともに、理工系イノベーション人材、グローバル人材等多様な人材育成に取り組むため、社会的ニーズに応える文理融合を含む専門分野を越えた教育プログラムを整備する。【4】	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-5(★) 履修証明制度等を活用した短期プログラムや遠隔授業の導入等ICT(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の活用により、社会人が学びやすい環境を整備する。【5】	【2】	実施している	【2】
小項目1-1-2 教育の質保証のため、学修成果の可視化、十分な学修時間の確保、学生の主体的・能動的学習の促進等に取り組む。【2】	【3】	達成している 2.33	【3】
中期計画1-1-2-1 カリキュラム全般の見直しの中で、学習意欲を育てる初年次教育を充実させるとともに、学生が主体的に将来設計を構築できるようなキャリアデザイン教育を行う。【6】	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-2-2 教育の質保証のため、教育成果の検証手法(ポートフォリオ、パフォーマンス評価等)及びGPA(グレード・ポイント・アベレージ)等を活用した学修過程と学修成果の可視化、学修時間の確保に取り組む。【7】	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-2-3(★) 講義科目において、アクティブ・ラーニング、フィールドワークを取り入れた授業数を倍増するなど、その拡大・充実を図るとともに、ICTの積極的活用を進め、学生の主体的・能動的学習を促進する。【8】	【3】	優れた実績を上げている	【3】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-1-3 人材養成像を明確にし、それぞれの目的に適合したコースワークを中核とする体系的な教育課程の編成の下で、文理融合を含む専門分野を越えた教育及び教育の国際化を推し進め、高度な専門性と社会性を備えた理工系人材、地域の求める人材、グローバル人材を育成する。【3】	【3】	達成している	2.33	【2】
中期計画1-1-3-1(★) 人材養成像を明確にし、専門分野及び専門分野を越えた融合領域に主専攻、副専攻制を導入しコースワークを中核とする体系的な教育課程の編成を行う。【9】	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-1-3-2 教育学研究科専門職学位課程教育実践高度化専攻(教職大学院)においては、修了生の教員就職率を90%以上とするため、実習と省察を軸とした教育プログラムの充実に加え、学部卒大学院生が現職派遣大学院生等から組織的に学ぶ機会の拡充整備、教職支援室等による教職指導の徹底等、教職キャリアの支援を強化する。 教育学研究科修士課程学校教育研究専攻においては、修了生(現職教員を除く)の教員就職率を80%以上とするため、教職大学院プログラムとの一部融合を通して実践的指導力を育てるとともに、教育学部以外の学部出身者にも小学校教員への就職の道を開くため、「小学校教員免許取得プログラム」の充実を図る。さらに、指導力向上のため、教育委員会の「初任者研修」の一部を大学院で先取りすることを目指す学校現場体験(学校支援ボランティア、非常勤講師等)とその反省・分析に当たる実践検討会の拡充等を進める。【10】	【2】	実施している		【1】
中期計画1-1-3-3(★) 「理工系人材育成戦略」を踏まえた広い視野から物事を俯瞰する能力や国際的な舞台で活躍できる能力を持った理工系イノベーション人材等の育成に取り組むため、文理融合を含む専門分野を越えた教育プログラムを整備する。【11】	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-1-3-4(★)(◆) 大学院教育の国際化を推進するため、英語のみによる学位取得可能な分野を充実・拡大するとともに、海外大学等との単位互換、国際共同教育プログラムの導入・拡大等に取り組むことを通じて、国際通用性のあるカリキュラムを整備する。【12】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-3-5(★) 大学院再編に伴い、電子工学研究所やグリーン科学技術研究所等と連携し、先端的研究を担う博士人材の育成を強化する。また、学生支援センターを活用して、博士人材の多方面での活躍を支援する。【13】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-1-3-6(★) 修士1年コース等の短期プログラムや遠隔授業の導入等ICTの活用により、社会人が学びやすい環境を整備する。【14】	【2】	実施している		【2】
小項目1-1-4 教育の質保証に向け、多角的な評価方法による教育成果の検証を通して、学修成果の可視化に取り組む。【4】	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-1-4-1 教育の質保証に向け、多角的な評価方法による教育成果の検証とGPAを含む評価基準の活用等を通して、学修成果の可視化に取り組む。【15】	【2】	実施している		【2】

静岡大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-2-1 第2期中期目標期間に設置した全学教育基盤機構を中心に、全学的観点からの教育ガバナンスと総合的見地に基づく教員配置を通して、明確な人材養成像に基づく体系的な教育課程の編成、教育の質保証、教育の国際化等の課題に取り組む。【5】	【3】	達成している	2.20	【3】
中期計画1-2-1-1 全学教育基盤機構において、全学的な視点からの入試改革、教育課程の編成、入口から出口までの一貫した学生支援、教育のグローバル化に対応した教育環境づくり等の教育マネジメントを強化し、教学IR(インスティテューショナル・リサーチ)を通して基礎となるデータの収集、分析に取り組む。【16】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-2(★) 国際連携推進機構において、ABPの取組の強化等、全学的な教育の国際化に取り組む。【17】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-3 第2期中期目標期間に設けた教員所属組織と教育研究組織を分離した体制の下、学部等の教育研究組織に教員を柔軟に配置することにより、部局単位の縦割教育から、全学的・総合的な観点からの教育実施体制へと移行する。【18】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-4 教育力の向上をめざし、FD(ファカルティ・ディベロップメント)とSD(スタッフ・ディベロップメント)を一体的な活動として位置づけ、教職協働で取り組む。【19】	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-2-1-5(★) 図書館の充実、学習環境のICT化等、教育効果を高める環境の整備充実を行う。また、ラーニングコモンズを活用したアクティブ・ラーニング等の学習支援を強化する。【20】	【2】	実施している		【2】
中項目1-3 学生への支援に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
小項目1-3-1 学生に対する学習支援、生活支援、課外活動支援、就職支援等を充実する。【6】	【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画1-3-1-1 多様な学生ニーズに対応する学習支援、生活及び課外活動支援を充実するため、学生相談体制の強化、授業料減免・奨学金制度の拡充、課外活動施設や学生寮の環境整備を行う。【21】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-2 教職員による全学的な学生支援体制を充実するため、第2期中期目標期間に引き続き学部の学生相談員や学生担当職員に対するFD・SD研修を実施する。【22】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-3(★) 外国人留学生及び障がい学生へのニーズに対応するため、チューター制の継続、留学生の日本理解のための地域交流会の開催、構内のバリアフリー化の促進、ダイバーシティに対する意識向上を図る授業の開講、障がい学生への相談体制の見直し等を実施する。【23】	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-3-1-4 学生の主体的な就職活動に向け、キャリア形成から就職までの一貫した支援を拡充するため、県内の大学及び企業等と連携したインターンシップ情報発信の仕組み等の就職支援体制を構築し、インターンシップ参加者数の倍増を図る。 さらに、就職カウンセラーの相談体制の見直しや就職支援セミナーの開催等を実施する。【24】	【3】	優れた実績を上げている		【3】

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目1-4-1	アドミッション・ポリシーに基づき、知識のみでなく様々な能力や意欲・適性を多面的・総合的に評価する入試を実施する。【7】	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-4-1-1	学士課程入試については、大学入学希望者学力評価テスト等の導入を踏まえ、個別学力試験において、アドミッション・ポリシーに基づくより多面的・総合的な評価基準を導入する。 また、新方式の入試導入に向け、全学入試センターにアドミッション・オフィス機能を加えるとともに、データに基づく入試方法、評価方法の改善に当たる専門人材を配置することによって、入試実施体制を強化する。【25】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-4-1-2	大学院課程入試については、アドミッション・ポリシーに基づきそれぞれの分野における専門的知識を問うと同時に、多様な学修歴の受験生に対応した入試を実施する。【26】	【2】	実施している		【2】
中期計画1-4-1-3	秋季入学、社会人入試等の社会的ニーズに基づく特色ある入試を引き続き実施するとともに、拡大を図る。【27】	【2】	実施している		【2】
大項目2	研究に関する目標	【3】	達成している	3.42 うち現況分析結果加算点 0.09	【3】
中項目2-1	研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	上回る成果が得られている	3.67	【4】
小項目2-1-1	自由な発想の下に基礎研究を推進するとともに、ミッションの再定義を受けて明確化した特色ある研究分野を戦略的に重点化し、組織的に研究を進める。【8】	【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画2-1-1-1	多様な知の蓄積を図るため、研究者個人の専門性に基づく自由な発想による基礎研究を推進し、研究成果の発信を拡大する。また、科研費申請支援件数を50件以上に拡大し、教員一人当たりの科研費採択数を引き上げる。【28】	【2】	実施している		【2】
中期計画2-1-1-2(★)(◆)	重点研究分野の国際的学術論文数を前期比10%及び国際共著論文比率を前期比20%増加させるなど、重点研究分野の連携による成果の創出や分野を超えた超領域研究による新領域の開拓に取り組む。また、超領域研究推進本部により定期的な研究成果発表会と国際シンポジウムを継続し、学内外の研究者交流を通して国際的に通用する研究人材を育成する。【29】 重点研究分野:ICTをベースにしたリーディング3研究分野 ○光応用・イメージング ○環境・エネルギーシステム ○グリーンバイオ科学	【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目2-1-2	地域の特色を生かした世界的産学連携拠点を形成し産業振興に資する研究や、地域の知の拠点として、学術文化の向上に寄与する研究を推進する。【9】	【4】	優れた実績を上げている	2.33	【4】
中期計画2-1-2-1	社会、経済、教育、文化等に係る基礎的研究を基に、対人援助に資する社会関係資本の基盤強化、学術文化の向上や文化資源の保護・活用、産業振興等に係る課題解決型研究プロジェクトに取り組み、研究成果の発信を拡大する。 さらに、関連する課題解決型研究プロジェクトを推進するため国際的、包括的に議論する場を設ける。【30】	【2】	実施している		【2】

静岡大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
中期計画2-1-2-2(◆)	地域の光関連企業と大学等との共同による光創起イノベーション研究拠点では、光の波長・位相・強度について時空を超えて自由に操る革新的研究として、光時空間遠隔制御技術等の研究開発を行う。【31】	【3】	優れた実績を上げている	【3】	
中期計画2-1-2-3(★)(◆)	地域課題と地域資源を生かした「地域防災」「山岳科学」等の特色ある自然、社会、文化に関する研究を組織的に実施し、その成果を地域に発信する。【32】	【2】	実施している	【2】	
小項目2-1-3	大学で創出される研究成果を社会へ還元する。【10】	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-1-3-1	リポジトリへの学術論文の登録を一層促進し、外国語併記等により国際発信を強化する。また、産学連携、社会連携による研究シーズ集を発行する。【33】	【2】	実施している		【2】
中項目2-2	研究実施体制等に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目2-2-1	全学的観点から研究の基本的な戦略や将来計画を策定し、研究上の強み特色を生かした重点研究分野を核に世界に羽ばたく創造的研究の推進体制を構築する。【11】	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-2-1-1	重点研究3分野を中心とした組織的研究を推進するため、研究戦略に関する会議やIR体制を整備し、研究IRを含む研究マネジメント機能を強化する。【34】	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-1-2(★)	重点研究3分野を中心に電子工学研究所、グリーン科学技術研究所及び創造科学技術大学院の連携による国際的プロジェクト研究を推進し、評価の高い学術論文執筆や国際研究組織への参画等、国際的に通用する優れた若手研究者を育成する。【35】	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-1-3	高い研究能力を有する若手教員、女性教員及び外国人教員を確保し、研究者の多様性を高めるとともに、これらの教員を重点的に支援することにより、競争力のある研究推進体制を強化する。【36】	【2】	実施している		【2】
小項目2-2-2	質の高い研究を進めるために部局の枠を超えて優れた研究者を戦略的に配置し、研究者が安定した研究活動を行える環境を整備する。【12】	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画2-2-2-1	電子工学研究所、グリーン科学技術研究所の担当教員、研究フェロー及び若手重点研究者等に対し、研究教育に集中させるため、役割分担を明確にする。また、研究力の高い研究者を常に確保するため、研究所の教員を戦略的に見直し、配置する。【37】	【2】	実施している		【2】
中期計画2-2-2-2(◆)	電子工学研究所では、ネットワーク型共同研究拠点として生体医歯工学の共同研究を推進する。また、電子工学研究所、グリーン科学技術研究所及び浜松キャンパス共同利用機器センターの設備の充実を行い、共同利用を拡大させる。【38】	【2】	実施している		【2】

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
	なし	—	—	なし
小項目3-1-1 地域における知の拠点として、教育・研究を基に地方公共団体、金融機関、近隣大学、産業界等と協働し、地域社会の諸課題の解決及び地域を支える人材の育成等に貢献する。【13】	【3】	達成している	2.33	【3】
中期計画3-1-1-1 地方公共団体、金融機関等との包括連携協定に基づく事業を推進し、地域社会が抱える諸課題に取り組み、COC+事業(地(知)の拠点大学による地方創生推進事業)等を通して地域創生に向けてその成果を還元するとともに、大学の教育研究の活性化につなげる。 地域課題の解決支援に当たっては、企画・実施・評価の各段階において、静岡県及び地域自治体と協働し、地域貢献プロセスを組織化・体系化する。【39】	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-2(★) 産業界との包括連携協定を積極的に活用し、企業等との共同研究、技術移転等を推進するとともに、イノベーション人材の育成を進める。【40】	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-3 社会・産学連携に係る情報の発信を積極的に行うとともに、大学に対する地域の多様な要望等の把握・反映のための機能を強化し、COC+事業等を通して地域と大学の相互交流を拡充する。【41】	【2】	実施している		【2】
中期計画3-1-1-4(★) 地域社会の具体的な課題群を題材とした教育研究活動を拡充し、課題解決のための社会連携の取組を促進するとともに、学生及び地域住民を対象とした教育プログラムを構築する。【42】	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-5(★)(◆) 第2期中期目標期間に引き続き、ABPの推進を通して、産業界と連携したグローバル人材教育システム(カリキュラム、インターンシップ、留学生の受入、学生の海外派遣等)を更に充実させ、アジアを中心とした企業の海外展開等を支える人材の育成に取り組む。【43】	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画3-1-1-6 同窓会及び地域コミュニティとの連携を強化し、教育研究活動の成果を地域社会に発信し、地域住民の学び直しの機会を拡充する。また、同窓会や地域住民の知識を学生のキャリアディベロップメントや地域創生に活かす。【44】	【2】	実施している		【2】
大項目4 その他の目標	【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 グローバル化推進のための教育研究環境の整備を行い、アジアをはじめとした国際社会で活躍できる人材育成や国際的研究の展開、国際貢献に積極的に取り組む。【14】	【3】	達成している	2.25	【3】
中期計画4-1-1-1(★) 全学的な教育実施体制の下で、英語のみで修了できるコース等の増設や、国際共同教育プログラムなどの国際的な流動性を高める教育プログラムを導入するに当たり、プログラム調査・整備の支援や海外留学支援(派遣・受入)等、教育のグローバル化に対応した教育環境づくりを推進する。【45】	【2】	実施している		【2】

静岡大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画4-1-1-2(★)(◆) 【3-1-1-5再掲】 第2期中期目標期間に引き続き、ABPの推進を通して、産業界と連携したグローバル人材教育システム(カリキュラム、インターンシップ、留学生の受入、学生の海外派遣等)を更に充実させ、アジアを中心とした企業の海外展開等を支える人材の育成に取り組む。 【43再掲】	【3】	優れた実績を上げている	【3】	
中期計画4-1-1-3(◆)(*) 学生の海外留学及び外国人留学生に対する情報提供、新たな奨学制度の導入や留学しやすい環境整備等、推進体制を整備・充実させ、年間の海外留学者数を500名に、外国人留学生数を600名に増加させる。 【46】	【2】	実施している	【2】	
中期計画4-1-1-4 海外交流協定大学等とともに形成している国際連携組織を中心に、国際教育研究プロジェクトを推進し、大学のグローバル化に活用する。 【47】	【2】	実施している	【2】	
小項目4-1-2 海外交流協定校等を中心とした国際ネットワークを構築するとともに、国際化のための環境整備を行い、教育研究の交流を一層促進し、多文化が共生するグローバルキャンパスを実現する。 【15】	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画4-1-2-1 グローバル化推進に向けた実施体制を強化するため、海外交流協定校を100校(機関)に増加させるとともに、海外事務所や海外同窓会を増設する。 【48】	【2】	実施している		【2】
中期計画4-1-2-2 キャンパス及び地域のグローバル化を推進するため、学生の居住環境の整備や学内外における異文化交流事業等を実施する。 【49】	【2】	実施している		【2】

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
- (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
- (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。